



2月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

節分は1年のうちで一番寒い時期です。朝、園庭に出てきたこどもたちが手洗い場を覗いて興奮しているの、後ろから覗いてみると、蛇口からポタポタ（おそらく一晩中）漏れていた水が凍って、氷筍（下から上に向けてできる氷柱）が出来ていました。

さて先日、高倉台小学校の授業を参観する機会がありました。教頭先生に案内していただいて1年生から6年生まで教室を廻り参観していきます。授業の邪魔をしないようにと息を潜めているつもりなのですが、低学年などは誰が来たのかと後ろを振り向いてきます。更に、私は幼稚園ジャージのままだったので、特に1年生の卒園児は私に気づくと笑顔になり、手を振ってくれる子も居ました。嬉しいのですが、授業中の先生に申し訳なく、私の方は笑顔で応えるのが精一杯でした。

1年生と2年生それぞれに1クラスずつ学級閉鎖がありましたが、会えた顔はどれも「自信」を感じさせる、小学校が自分の居場所になっていてこそその明るい笑顔でした。

参観後の懇談では、校長先生が「こどもたちがもっと深い意見交換をする姿を見たいと思います。」と仰っていました。学習場面でもっと深い意見のぶつかり合いがあって欲しいのです、と。

実現するには、これまでの「既に出ている正解や解き方を覚える」のとは違う学習場面の創造と、各個人が尊重される対人関係の構築も必要になるでしょう。例えば、答えが幾つもあるような課題に、其々が積極的に取り組み、相互の考え方や答えに興味を持ち理解しあう。言うは簡単、しかし様々な制約がある中でそのような学習を実際に作り上げるのは、本当に大変なことだと思います。取り組んでおられる先生方の努力に敬意を表したいと思います。

「こどもたちが他の人と十分関わりながら自分で判断し、やり抜く力が育つように」

これは神戸YMCAの幼稚園が自らの特色としてずっと取り組んできた事項の一つです。

学習指導要領が改訂されて新しくなった小学校からの学習のねらいが、そこに繋がってきたように思います。

年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなた方は神に愛されている子供です」
(エフェソの信徒への手紙 5章1節)

2月主題 『(なかまと)心あわせて』

<聖句> 「愛は、すべてを完成させるきずなです。」
(コロサイの信徒への手紙 3章14節)